

(様式第7号)

おおさかグローバル奨学金留学報告書

2015 年3月2日

学 校 名				奨 学 金 交 付 年 度	平成 25 年度
氏 名					
留 学 期 間	平成 26 年9月24日 ~ 27年2月17日				
留 学 先	国 名	ドイツ	学校名	ブレーメン州立経済工科大学	
専 攻	ビジネス				
留学中の生活、留学の成果、留学で得たことをどのように活かすか、これから留学する人へのアドバイス等について2000字以上で記入してください。					
<p>私はドイツ語既習者ではなく、ドイツ語の勉強をせずに、ドイツの世界に飛び込みました。この留学は、自分自身を見つめ直し、そして知らない言語の土地で自分が人に頼らず、生活していくという自分への挑戦をこめた留学でした。</p> <p>はじめは、街中がドイツ語であふれ、トラムという路面電車に乗ることや、スーパーで買い物をすることすら大変でした。留学中は、“まず自分で考えたり調べたりして行動する。分からないことがあっても日本人ではなく、ドイツ人で留学生に頼る”ということ徹底しようと思ったので、最初の手続き（VISA申請や保険の加入）を行うだけでも、相当の忍耐力が鍛えられました。ただドイツ語も授業やタネム（ドイツ人学生と母国語を教え合う制度）を通し、帰国するころには、ドイツ人の会話が時々理解できたり、ドイツ語で映画を鑑賞できるようになったりした時に成長を感じました。しかし他の日本人の留学生が事前にドイツ語を勉強してきた上でさらに成長しているのを見ると、少し自分に物足りなさを感じました。ドイツ人は英語が上手なので生活には全く困りません。私は英語力の向上と異文化理解力を養うためにきたので、十分良い環境は揃っていました。しかし自分自身がより楽しめるためには、事前にドイツ語をある程度身につけていくべきだったと思いました。</p> <p>二つめとしてルームシェアを通して学んだことを挙げます。私は日本人がいないシェアルームを探していました。もし日本人のいるシェアルームを選んでいたら、私の留学での成長は、今の半分くらいだったのではないかと思います。99国籍の人とのシェアルームは、それぞれ別の国の私生活を見ることが出来ます。私からすれば、“キッチンやバスルームなどの共同スペースは、キレイにするのが当たり前であり、礼儀である”と思っていました。しかしこの当たり前も、たかさんの国の人が一緒に暮らすと当たり前ではなくなるのです！感覚も考え方も育った環境もみなちがいます。私の家でははじめに掃除当番やルールなどを決めませんでした。それが原因でみな掃除をせず、家にゴミがたまる時期がありました。私は自分だけが定期的な掃除をしていることを不満に思い、一時はルームメイトと接触しないように過ごす時期もありました。しかし、ちゃんと話し合えばいいかと思い、私はルームメイトたちと意見を共有する場を設けました。やはり国によっては、家中の食器がたまるまでためておいて、食器洗い機で洗うという国があたりなど、考えや感覚が異なることを理解しました。私も日本のことや、私自身が</p>					

感じることを話し、お互いが納得のいく方法を考えました。その結果、掃除当番の表を作り、定期的に順番がまわってきたら掃除をするというルールを決めました。その後、ルーレットとの関係も良くなり、一緒に買い物に行ったり、料理を作ったりするようになりました。この経験を通して学んだことは、異なる文化の人が1つの屋根の下で暮らすには、一定のルールが必要であるということです。自分の常識が他の人の常識ではないので、向き合うことが大切であると感じました。

この留学を通じ、異文化に対する興味がより深くなりました。育った環境が異なるとどこまで違うのか、という発見があたり、反対に他の国の文化と日本の文化が似ている話が盛り上がりたりなど、様々なことを吸収しました。私がいろいろな国の人々に出会い、日本人であると自己紹介するといっている人々が“SUSHI(寿司)!!”と叫んでくれたり、お辞儀をしに来てくれたりなど日本のことを少しでも知っていてくれて嬉しかったのを覚えています。相手の国の感謝の言葉を私が知らなくても、“ありがとう”を知っている人は多かったです。自国のことを少しでも知っていてくれたり、“ありがとう”という言葉だけでも知っていてくれるだけで、私は日本の文化、食文化をおもてなしをさらに大好きになつたし、誇りに思いました。

今後の活動としては、実現したいことが2つあります。1つめは、日本人に対する留学促進です。特に中学生、高校生のうちに海外に興味を持ち、目を向けてほしいです。今回の私のように英語以外の国に飛び込むのも、中学・高校の学生がいく方がより吸収がはやいのではないかと考えます。早いうちから世界を知っておくことで、必ず視野が広がると思うからです。

2つ目は、外国人に日本を知ってもらい、好きにならしてもらい、そして日本に足を運んでもらうためには、どうすればいいかを具体的に考えていきたいです。

これから留学する人へのアドバイスとしては、壁にぶち当たっても諦めず、食らいついていってほしいということです。私は過去にアメリカ・ドイツに1ヶ月ずつ留学を経験していますが、長期留学は1ヶ月の留学では味わうことのできない、文化のちがいや、言語の壁、授業の質やレベルを経験することでしょう。そんな時に、日本人に頼って共に行動したり、家に引きこもっていては、成長できることや、解決できることも、できなくなってしまうと思います。留学前に、“自分のために留学に行くのか。”“どんなことを達成したいか。”を明確にすることが大切です。私も先輩たちから同じことを言われていたが、やはり留学中に時々、忘れてしまいがちなものなのです。自分の目的、目標を忘れる、留学中も何度も留学前の気持ちを出して、頑張してほしいです。